



開発中GFIスマホ割符™

12 Nov. 2020

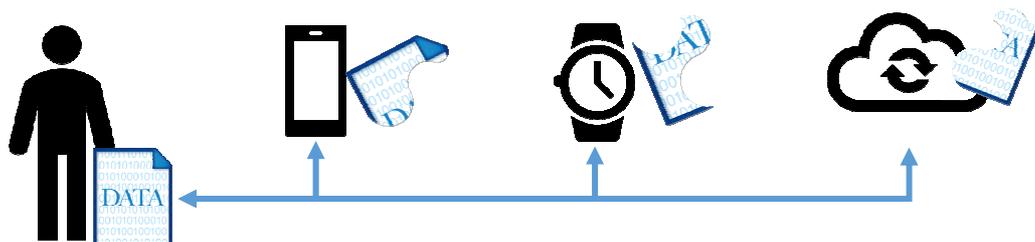
取得済特許利用

世界初の割符式スマホ紛失時自動情報消去商品※

営業活動でのうっかりミスをインシデント化させません！

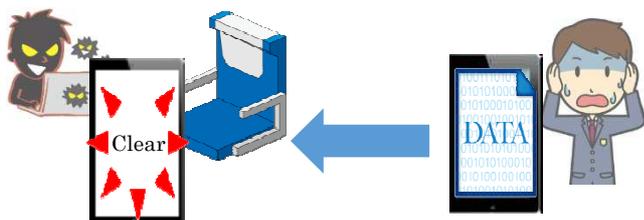
(リスク顕在化未然防止ソリューション)

GFIスマホ割符™は自動割符化&分散管理+自動消去で機密情報とプライバシーを守ります。



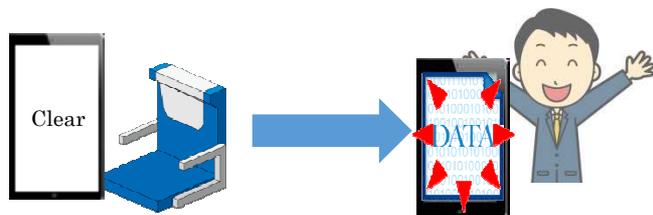
(※)2020年11月現在GFI自社調べ

スマホやタブレットの置忘れ・紛失・盗難時でも安心



スマホが一定の距離離れた場合、スマホ内の機密情報を**自動消去**することで情報漏洩を防ぎます。
(近接無線通信可能範囲)

スマホやタブレット発見時もそのまま利用可能



スマホが手元に戻った場合、機密情報は**自動復元**されます。
(近接無線通信可能範囲)

スマホやタブレットが戻ってこなくても復元可能 (実装中)



スマホが手元に戻ってこなかった場合、**新しいスマホに元の情報を復元**できます。

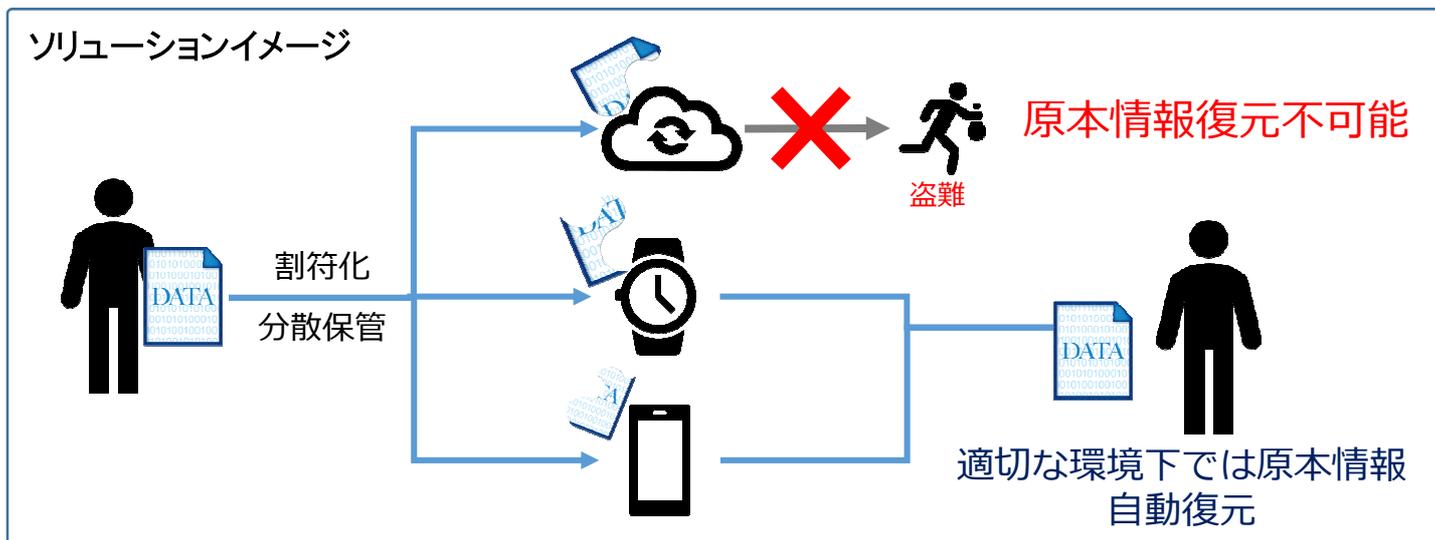
注：この場合は操作が必要です。

○月次利用料のみアプリ導入コストは0円 ○特別な操作は不要

スマホ割符™はGFI電子割符®を使用しています

—スマホ割符は自己情報コントロール権の管理にも最適です—

GFI電子割符®は独自技術でビットレベルで毎回ランダムに原本情報を分割し複数の割符を生成し、復元に至らない数の割符では原本情報に復元出来なくする代表的秘密分散技術です。



ECOM、2010年3月. TF1法的意見書

牧野総合法律事務所 弁護士 牧野二郎

<http://www.jipdec.or.jp/archives/publications/J0004291>

一般に訴訟を提起する場合、原告となろうとする者が、自らの権利を侵害するものであることを示す必要がある（**原告適格**）。ところが本件における個々の電子割符が誰の情報であるかを特定することができず、結局仮に誰かがこれを取得したとしても、その情報が自身のもの（個人情報）であることを立証することができないため、原告たりえないという結論となる。こうして、**電子割符技術により、多くの場合訴訟リスクも回避される**と考えられる。

	平文	暗号化	割符化
完全違反	○		
漏洩に該当		○	
該当せず			○

個人情報への技術的安全管理措置の違いによる、漏えいが発生した際の組織外からの見え方。
※復元に至らない一部の割符が流出した場合

注：引用の外部評価等は、GFI電子割符®
技術アルゴリズムを前提としたもの

開発実機:Fossil Gen5 (THE CARLYLE HR) / Wear OS by Google 2.19

Google Pixel 3a / Android 10

留意事項:Google ドライブ自動バックアップを停止して開発中

GFIは開発中スマホ割符の国内外モニターやビジネスパートナーを募集中

商品開発・供給元:

営業代理店:



グローバルフレンドシップ株式会社
東京都渋谷区笹塚1-32-2ソネット笹塚102
Email : info@gfi.co.jp

©本資料記載事項は予告なく修正変更されることがありますので、最新情報は供給元等までお問い合わせください。